

2025年度 群馬大学共同教育学部
学校推薦型選抜・帰国生選抜問題

教育専攻

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は表紙を含め3枚、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
3. 受験番号と氏名は全ての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

教育専攻 小論文

次の文は、ある小学校教師が、学習に困難を抱える児童に対する自身の指導について書いたものである。これを読んで、後の問に答えなさい。

小学校4年生・5年生とAさんを2年間担任した。書字（注）において「ともだち」を「とまだち」と書くような同じ行での母音違いの書き間違いや、形態の似た文字の書き間違いなど、平仮名清音レベルの書き間違いがあり、算数では九九の暗記ができていないようであった。ひとりずつ小数の掛け算の筆算を確かめながら丸つけする時、クラスで、Aさんは最後から二番目にノートを持ってきた。間違いを見つけ、「ここね……」とその箇所を指さそうとするとAさんは「あー（わかったわかった。それな）」と、いう感じでノートを奪うように持って席へ戻り、友達の答えを写してもう一度持ってきた。

そんなやりとりが2ヶ月くらい続いた。6月後半に、子どもたち一人ひとりと話す教育相談週間があり、そこでこのことを取り上げて、Aさんと話した。

私「Aさん、お直しの時にさ、持ってきて、先生がここっていうたら、あー！ っていうて、すぐ持って帰るやん」 Aさん「うん」

私「あれな、先生は、答えが間違えてるで！ って言いたいんじゃないねん」 Aさん「そうなん」

私「うん。Aさんがどうやってこの答えになったのか、やり方を教えて欲しいと思ってるねん。けどAさんそれ聞く前に、あー！ っていうて、すぐ持って帰るやん」 Aさん「うん（少し笑う）」

私「あれさ、持って帰らんと、先生が今聞いたようなこと、ちょっと教えてくれる？ それも嫌？」

Aさん「嫌じゃない。うん。わかった」

それから、Aさんはノートやプリントを持ってきたときに「ここ教えて」と、言うようになった。

7月に入り、Aさんは手を挙げ発表するようになり、秋の「ごんぎつね」の学習では、書字の困難さは変わらないが、課題にしっかりと取り組んだ。

5年生になり、書字の困難さは変わらないが、書くことや発言することへの拒絶感はなく、順調に学習を進めているように思っていた。ところが、計算ドリルは提出しない、持参しない日が続いた。計算の困難さは理解していたが、読み書きの困難さに向き合いながら学習に取り組んでいるAさんに対し、私は「算数の計算にも向き合わせていくことが必要だな」と感じていた。

そして、個別懇談会に来校したお母さんに夏休み中の補充学習を提案した。お母さんは「ぜひ、おねがいします」とおっしゃり、翌日Aさんと呼んで、夏休み中の学習を持ちかけた。Aさんは、頑なにイヤだと言った。これまでの頑張りや、母のお願い、国語や社会

では前向きになってきたAさんの様子から、ここは頑張らせるところだと思い、私は、「でも、算数のドリル一人でできた？」と問い詰めた。Aさんは言葉に詰まった。「ね。夏休みに少し来たら、先生と一対一で、Aさんのペースでできるから、おいで」と言い、Aさんをうなずかせた。

終業式も終わり、1学期最後の作文の時間。1学期を振り返るAさんの作文は「石垣（Aさんの担任で、この文章の筆者）に圧をかけられて、夏休み来いと言われた。最悪な気持ちで終わる」と結ばれていた。

夏休みの初日、Aさんは時間通りにやってきた。「今日は何をするつもりで来た？」と尋ねると「知らん。来いって言われたから来た」と、Aさんは答えた。これまでとらえてきたAさんの学習の事実から、私は「もう少し時間をかけて、個別で、落ち着いて、一対一で取り組めば、もう少しできるようになる」そう考えていたが、それはAさんがそう考えたり、望んだりしていたのではなかった。「拒否の自由」がAさんにあったかどうかという視点で、この個別指導を反省的にとらえなおしたいと考えている。

出典：石垣雅也：「子どもの事実」と学習指導——安心と自尊心を手がかりに、『教育』No.923、2022年、87-88ページ。

（出題の都合上、文章の一部を省略し、一部の表記を修正した）

（注）書字の困難：視覚情報を脳でうまく処理できない、目と手の連携がうまくいかないなどの原因から、文字を正しく書けなかったり、大きさや形のコントロールがうまくいかなかったりすること。

問1：この文章から、筆者とAさんとの関係について読み取れることを述べなさい。

問2：下線部「この個別指導を反省的にとらえなおしたい」について、あなたならAさんの算数の計算指導にかかわって、どのように工夫するか述べなさい。

（計 800 字以内）